

# 新型コロナウイルスワクチンの接種情報が 対人認知に及ぼす影響

平山 洋光

(行廣 隆次ゼミ)

## はじめに

本研究のテーマは新型コロナウイルスワクチンの接種情報が人々の他者に対する評価に及ぼす影響についてである。さらに、評価に影響を及ぼしていると考えられるもののうち、個人の影響や不安・不満といった要因が、新型コロナウイルスワクチンの接種の有無による評価の違いに影響するかを検討する。これらを検討することで、新型コロナウイルスワクチンが対人認知にどのような影響を及ぼしているのか、またその結果にどのような背景が関係しているか模索していく。

## 新型コロナウイルス感染症の概要

COVID-19 こと新型コロナウイルス感染症（以後新型コロナウイルスとする）は2019年に中国の武漢にて発見されたウイルスである。それからまもなく世界中に感染拡大し、多くの被害が報告されている。日本も感染拡大を受けた国である。

2022年12月28日時点では、日本の新型コロナウイルス感染者数は累積で30,568,877人であり、死亡者の累積は60,158人であった（厚生労働省, 2023）。

経済面においても大きな打撃を受けており、「データで見る新型コロナ 中小企業への影響」というNHKの記事によると、約6割の中小企業が売り上げは減少したと回答している。そのうち3割ほど減少しているのは29%、半分以上売り上げが減少しているのは17%と経済的に大きな打撃を受けている企業が多いこと分かる。特に飲食業界と宿泊業界が顕著で、飲食業界だと3割ほどは32%、半分以上は48%、宿泊業界だと3割ほどは24%、半分以上は62%が売り上げは減少したと回答している（NHK, 2022）。

日本は新型コロナウイルスの影響を受け、2020年4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に感染拡大防止策の一環であ

る緊急事態宣言を行った。後に緊急事態宣言の適応範囲を全国に拡大した。緊急事態宣言では学校の休校や百貨店や映画館など多くの人が集まる施設の使用制限などが行われており、感染拡大防止に尽力していた。この他にも密集・密閉・密着の3密を避ける運動の促進や、マスクの着用、休校や自宅勤務・旅行の制限などといった外出制限、新型コロナウイルスワクチン接種の促進なども緊急事態宣言内の活動の一環として行われていた。これらから人々の生活は新型コロナウイルスによって制限されていたと考えられる。

新型コロナウイルスが流行ってから3年ほど経った現在では屋外でのマスク不要など緩和されている部分はあるものの、3つの密（①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）、②密集場所（多くの人が密集している）、③密接場面（互いに手を伸ばしたら手が届く距離での会話や発声が行われる））の回避、人と人との距離の確保、屋内でのマスクの着用、手洗い等の手指衛生、換気等は基本的な感染症対策として継続して行われている。しかし現在、オミクロン株の出現のため、感染者数が増加傾向にある。そのため、政府はオミクロン株対応新型コロナウイルスワクチンの接種の促進など対策を行っている。

これらが人々への心理的影響に繋がっている可能性は大きいと考えられる。

## 新型コロナウイルスワクチンについて

新型コロナウイルスに対する対抗手段として持ち出されたのが、新型コロナウイルスワクチンである。

新型コロナウイルスワクチンは2021年4月から高齢者の1回目の接種が始まり、5月から一般の人にも接種が始まった。新型コロナウイルスワクチンはこれまで5回接種を行っており、累計で370,423,086回接種されている（2022年12月28日

時点)。1回目の接種率は81.4%、2回目の接種率は80.4%、3回目の接種率は67.6%、4回目と5回目の接種率はデータなしであった（首相官邸, 2022）。このデータから多くの日本人が新型コロナウイルスワクチンを接種していることが分かる。

新型コロナウイルスワクチン接種の効果は重症化リスクや感染リスクを減らすとされており、厚生労働省や首相官邸ホームページなどで推奨されている。しかし、副反応もあることから、新型コロナウイルスワクチンは努力義務とされている。努力義務とは「接種を受けるよう努めなければならない」という予防接種法の規定のことで、義務とは異なるとされている。そのため、新型コロナウイルスワクチンは「本人が納得した上で接種をご判断いただくことになっています」とされている（厚生労働省, 2022）。また、法務省のホームページからワクチンによる差別の防止に取り組んでいることから、少なからず新型コロナウイルスおよびワクチンによる差別が問題になっていると考えられる（法務省, 2022）。

### 新型コロナウイルスと対人認知に関連する先行研究

新型コロナウイルスと対人認知に関連する先行研究は多く存在する。例えば元吉（2021）によると新型コロナウイルス感染症による人々への心理的影響においては感染不安と規範逸脱者に対しての嫌悪に正の相関が確認されており、その理由を行動免疫システムという概念で説明している。行動免疫システムとは、感染症の罹患リスクを高める対象や状況に対して、嫌悪感・不安感を喚起し、回避行動を促すことで、罹患リスクを低める心理的な適応機能と定義されている（Schaller & Duncan, 2007）。

この行動免疫システムが関わっている研究として新型コロナウイルスとステレオタイプの認知と行動免疫システム活性化の個人差の検討を行った研究もある（山本・岡, 2021）。こちらでは、新型コロナウイルス感染者に対して社会性が低く、活動性が高いステレオタイプの認知という側面があることが確認されている。また行動免疫システムがネガティブなステレオタイプの認知を説明している可能性が示唆されている。

その他、福井（2022）は新型コロナウイルス感

染症患者への偏見や差別意識を直接的に測定する尺度を作成し、症状や感染経路こそ類似してはいるが致死率や重症度が異なる風邪・インフルエンザへの偏見や差別意識と比較するとともに、その背景要因について実際の調査研究を通して探索的に検討した。その研究では新型コロナウイルス感染者への忌避・偏見的態度の方が、風邪・インフルエンザ感染者へのそれよりも強いことが確認されている。

メディアシニズムと新型コロナウイルス感染症によるリスク認知および市民的価値観の関連について検討した研究も存在する（李, 2021）。メディアシニズムとは、「報道の行為主体、報道機関、報道の制度全体が、道徳性と能力を欠いているという信念から形成された、報道メディアをさげすみ、あざける態度」と定義されている。この研究では「メディアシニズムという報道メディアに対するオーディエンスの反応が、感染症に関する情報メディアの利用パターンに影響を与え、その結果として感染症に対するリスク認知にも影響を与える可能性がある」ことを示唆されている。

このように新型コロナウイルスが対人認知に影響を与えるという研究が多く報告されている。

### 本研究の目的

先行研究から、新型コロナウイルスが対人認知に負の影響を与えている可能性は大きいと考えられる。また、研究結果から新型コロナウイルスに対しての不安や感染者に対するステレオタイプの認知を持つなど負の対人認知が多いことも確認されている。よって新型コロナウイルスには負の側面があると考えられる。

しかし、新型コロナウイルスと対人認知に着目している研究は多く見受けられるが、新型コロナウイルスワクチンと対人認知の關係に着目した研究は多くない。そこで本研究では新型コロナウイルスワクチンによる対人認知への影響を調べるため、新型コロナウイルスワクチン接種者と非接種者の行動に対する評価の違いについて検討する。

また、新型コロナウイルスワクチン接種者に対する認知の違いと関係する要因を検討する必要がある。要因に関係していると考えられる項目はいくつか存在すると考えられる。そこで、今回の研

究では個人の影響や不安・不満などの感情といった個人差要因に焦点を絞り、研究を行う。仮説として個人の不安・不満や影響の認知の個人差が新型コロナウイルスワクチン接種者と非接種者の評価に関係していると考えられる。不安・不満や負の影響が大きいほど新型コロナウイルスワクチン非接種者に対して評価が低くなると推測する。

## 方 法

### 調査日時、状況

調査期間は2022年12月26日から2022年12月29日であった。Google Formsによる質問紙調査を行い、性別・年齢などを含む計32個の質問に回答を求めた。

調査開始時の状況はオミクロン株の流行が起こっており、オミクロン株対応のワクチン接種が行われている状況である。また、5回目のワクチン接種が開始してから2ヶ月ほど経過している。

### 調査協力者

同意を得た調査参加者は53名（男性29名、女性24名）であり、平均年齢は20.90歳（ $SD = 1.29$ ）であった。調査参加者の多くが大学生であった。

### 調査項目と手続き

まず倫理的配慮として、統計的に処理されるため個人情報入手しないこと、参加は任意であること、個人が特定される情報は一切取得しないこと、送信ボタンを押すまでデータは送信されないことを教示した。その上で、同意いただける方のみ回答するよう教示した。同意した方は同意する選択肢を選んでもらい、次へ進んだ。

次に基本的情報として性別、年齢の回答を求めた。その際、倫理的配慮の一環として性別を「その他、または回答しない」という選択肢を設けた。また、年齢に関しても回答したくない場合は0と回答するよう教示した。

続いて各質問紙項目に回答を求めた。まず新型コロナウイルスワクチン接種者と非接種者の行動に対しての評価の回答を求めた（以後、新型コロナウイルスワクチン接種者への評価をワクチン接種者に対する評価、新型コロナウイルスワクチン

非接種者への評価をワクチン非接種者に対する評価とする）。質問項目は、厚生労働省より提示されている3つの密にあたると考えられる行為を基準に作成した。その他に、データとして使用しない質問項目として3密にあたらぬと考えられる行為も同時に提示した。質問内容を以下に示す。

- ・友人とカラオケをしている
- ・友人と食事をしている
- ・フェスに参加している
- ・忘年会に参加している
- ・一人で外食に行く
- ・サッカーをスタジアムで観戦している
- ・一人で動画を視聴している
- ・友人と旅行に行く
- ・対面で会議をしている
- ・クラスメイトと勉強会を開く

それらの行動に対して7件法（とても好ましい、好ましい、少し好ましい、どちらでもない、少し好ましくない、好ましくない、とても好ましくない）で測定した。「一人で動画を視聴している」と「一人で外食に行く」の2項目はデータとして使用しない質問項目のため、分析には入れなかった。

続いて、個人差要因である新型コロナウイルスによる個人への影響の程度（以後、影響点とする）について回答を求めた。質問は、収入、職場・学校、家庭での環境、家庭での関わり方、友人との関わり方の5つを提示した。質問内容を以下に示す。

- ・収入は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？
- ・職場や学校の環境は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？
- ・家庭での環境は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？
- ・家族との関わり方は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？
- ・友人との関わり方は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？

それらを7件法（とても良い影響を受けた、良い影響を受けた、少し良い影響を受けた、変わら

## 新型コロナウイルスワクチンの接種情報が対人認知に及ぼす影響

ない、少し悪い影響を受けた、悪い影響を受けた、とても悪い影響を受けた)で測定した。今回の研究で測定したいのは正の影響ではなく負の影響の方のため、悪い影響に高い点数を割り当てた。

続いて、もう一つの個人差要因である新型コロナウイルスによって受けた影響による不安や不満(以後不満点とする)について回答を求めた。質問は将来の不安、コロナによる制限、学校や職場の様式の変化、新しい生活様式の4つであった。質問内容を以下に示す。

- ・新型コロナウイルスによって、将来の不安が以前と変わりましたか？
- ・新型コロナウイルスによって受けたイベント制限や旅行制限により、不満を感じましたか？
- ・新型コロナウイルスによって変化した職場や学校の様式により、不満は感じましたか？
- ・新型コロナウイルスによって求められた新しい生活様式により、不満は感じましたか？

か？

将来の不安に関する項目のみ、小さくなった場合を考慮し、7件法(とても大きくなった、大きくなった、少し大きくなった、変わらない、少し小さくなった、小さくなった、とても小さくなった)で測定した。その他3項目は4件法(とても感じる、感じる、少し感じる、感じない)で測定した。

調査終了後は、研究にご協力いただいた旨の感謝と送信ボタンを押すまでデータが送信されないことを提示し、調査は終了した。

### 分析方法

まず作成した質問項目の内的一貫性の検討のため、信頼性分析を行った。またそれぞれの変数間の相関を調べるため、相関分析を行った。次にワクチン接種の有無による評価の差を検討するため、対応のある $t$ 検定を行った。さらに影響点と不満点が新型コロナウイルスワクチン接種者の評価と新型コロナウイルスワクチン未接種者の評価に影

Table 1 各質問項目の平均と標準偏差

質問項目		平均	標準偏差
ワクチン接種者に対する評価	友人とカラオケをしている	5.19	1.27
	友人と食事をしている	5.45	1.12
	フェスに参加している	4.57	1.70
	忘年会に参加している	4.68	1.57
	サッカーをスタジアムで観戦している	4.81	1.63
	友人と旅行に行く	5.19	1.27
	対面で会議をしている	5.11	1.42
クラスメイトと勉強会を開く	5.13	1.26	
ワクチン非接種者に対する評価	友人とカラオケをしている	3.43	1.81
	友人と食事をしている	3.87	1.74
	フェスに参加している	3.15	2.02
	忘年会に参加している	3.08	1.89
	サッカーをスタジアムで観戦している	3.21	1.98
	友人と旅行に行く	3.57	1.92
	対面で会議をしている	3.77	1.69
クラスメイトと勉強会を開く	3.75	1.74	
影響点	収入は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？	4.36	1.19
	職場や学校の環境は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？	4.49	1.90
	家庭での環境は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？	5.04	1.07
	家族との関わり方は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？	4.58	1.15
	友人との関わり方は新型コロナウイルスによってどのような影響を受けましたか？	5.00	1.33
不満点	新型コロナウイルスによって、将来の不安が以前と変わりましたか？	4.81	0.92
	新型コロナウイルスによって受けたイベント制限や旅行制限により、不満を感じましたか？	3.08	1.14
	新型コロナウイルスによって変化した職場や学校の様式により、不満は感じましたか？	2.27	1.14
	新型コロナウイルスによって求められた新しい生活様式により、不満は感じましたか？	2.62	1.00

響している可能性を検討するため、共変量を含む反復測定分散分析を行った。これらの分析にはjamoviを用いた。

## 結果

まず、調査項目の点数化に際して、各質問紙項目の平均値と標準偏差の算出 (Table 1) と、信頼性分析を行った。信頼性分析の結果、ワクチン接種者の評価に関しては  $\alpha = .904$ 、ワクチン非接種者の評価に関しては  $\alpha = .969$ 、影響点に関しては  $\alpha = .492$ 、不満点に関しては  $\alpha = .714$  であった。影響点のみ信頼性が低い結果となった。

次に、各変数間の相関分析を行った結果、ワクチン接種者とワクチン非接種者の評価には  $r = .458$  と中程度の正の相関、ワクチン非接種者の評価と影響点には  $r = -.414$  と中程度の負の相関が見られた (Table 2)。

次に、ワクチン接種者と非接種者に対する評価の差を検討するため、ワクチン接種の有無を独立変数、それぞれに対する評価を従属変数とした対応のある  $t$  検定を行った。その結果、ワクチン接種の有無による評価の差が有意であった ( $t(52) = 7.32, p < .001$ )。ワクチン接種者に対する評価の平均値は 40.13 ( $SD = 8.78$ )、ワクチン非接種者に対する評価の平均値は 27.83 ( $SD = 13.45$ ) であり、ワクチン接種者に対する評価の平均値はワクチン非接種者に対する評価の平均値よりも 12.30 高かった。

次に、影響点と不満点がワクチン接種者の評価とワクチン非接種者の評価に影響している可能性を検討するため、ワクチン接種の有無を参加者内要因とし、影響点と不満点の2つを共変量とする反復測定分散分析を行った。その結果、ワクチン接種の有無の主効果 ( $F(1,50) = 0.22, p = .642$ ) は

Table 3 回帰分析の結果

	従属変数			
	ワクチン接種者 に対する評価		ワクチン非接種者 に対する評価	
	$\beta$	$p$	$\beta$	$p$
独立変数				
影響点	-.118	.418	-.475	<.001
不満点	.003	.985	.261	.045
$R^2$	.014		.236	

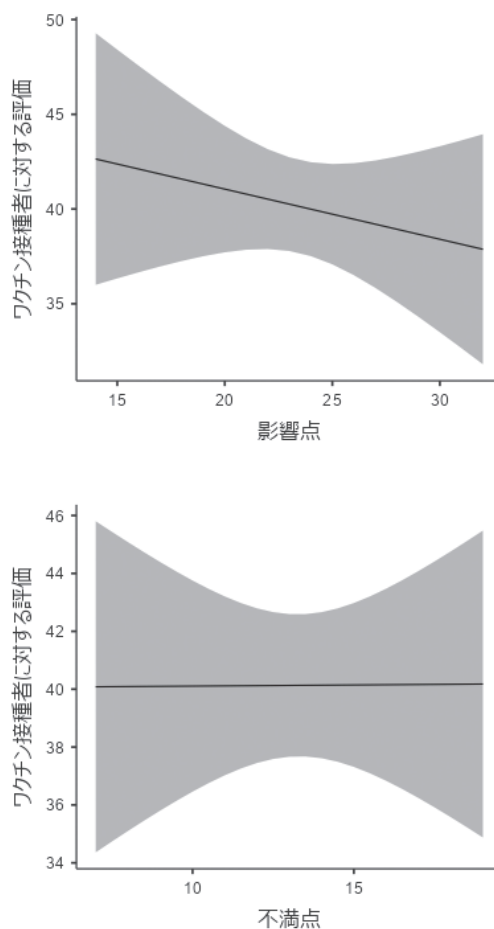


Figure 1 ワクチン接種者に対する評価の回帰分析による各独立変数に対する推定周辺平均

Table 2 各変数間の相関分析の結果

	ワクチン接種者 に対する評価	ワクチン非接種者 に対する評価	影響点	不満点
ワクチン接種者に対する評価				
ワクチン非接種者に対する評価	.458***			
影響点	-.117	-.414**		
不満点	-.025	.150	.233	

\*...  $p < .05$ , \*\*...  $p < .01$ , \*\*\*...  $p < .001$

## 新型コロナウイルスワクチンの接種情報が対人認知に及ぼす影響

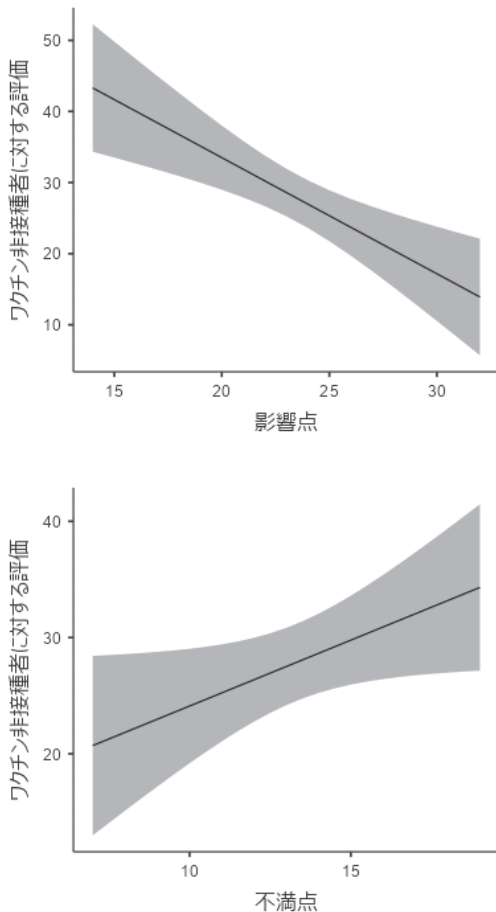


Figure 2 ワクチン非接種者に対する評価の回帰分析による各独立変数に対する推定周辺平均

有意ではなかった。影響点の主効果 ( $F(1,50) = 8.37, p = .006$ ) は有意であった。不満点の主効果 ( $F(1,50) = 1.90, p = .174$ ) は有意ではなかった。ワクチン接種の有無と影響点の交互作用 ( $F(1,50) = 11.50, p = .001$ ) と、新型コロナウイルスワクチン接種の有無と不満点の交互作用 ( $F(1,50) = 4.89, p = .032$ ) はどちらも有意であった。

次に有意であった交互作用についてさらに検討するため、ワクチン接種の有無の水準ごとに、それぞれの新型コロナウイルスワクチン接種の有無に対する評価を従属変数、影響点・不満点を独立変数とした回帰分析を行った (Table 3)。

その結果、新型コロナウイルス接種者の評価の場合では影響点  $\beta = -.118$  ( $p = .418$ ) と不満点  $\beta = .003$  ( $p = .985$ ) はどちらも有意ではなかった。

Figure 1 に示したように、影響点および不満点からの影響は見られなかった。新型コロナウイルス未接種者の評価では影響点  $\beta = -.475$  ( $p < .001$ ) と不満点  $\beta = .261$  ( $p = .045$ ) はどちらも有意であった。Figure 2 に示したように、影響点では正の影響が、不満点では負の影響が確認された。

## 考察

本研究は個人差要因による新型コロナウイルスワクチン接種者および非接種者に対する対人認知の違いを検討した。

その結果、相関分析においては新型コロナウイルスワクチン接種者の評価と非接種者の評価に中程度の正の相関が、影響点に中程度の負の相関が見られた。対応のある  $t$  検定においては、ワクチン接種者に対する評価とワクチン非接種者に対するに差が認められ、ワクチン非接種者の方がワクチン接種者に比べ、評価が低いことが判明した。反復測定分散分析では影響点の主効果、ワクチン接種の有無と影響点の交互作用、ワクチン接種の有無と不満点の交互作用が有意であった。交互作用が有意であったため、回帰分析を行った結果、ワクチン接種者に対する評価への影響点・不満点による影響は見られなかったが、ワクチン非接種者に対する評価に影響点・不満点による影響が見られた。影響点は負の影響が、不満点は正の影響が見られた。

これらの結果から以下の事が判明した。まず相関分析の結果からワクチン非接種者に対する評価と影響点に相関があったことで、個人内の新型コロナウイルスによる影響が大きいほどワクチン非接種者に対する評価に負の影響を及ぼすことが判明した。

次に対応のある  $t$  検定の結果からワクチン接種の有無によって評価に影響を及ぼす点が判明した。よってワクチンを接種しないことによって、人々に負のイメージを持つことが確認された。

次に反復測定分散分析と回帰分析の結果から個人が認知している新型コロナウイルスからの影響や新型コロナウイルスに対する不満の程度が、ワクチン接種者に対する評価へは影響が見られなかったが、ワクチン非接種者に対する評価では影

響を及ぼしていることが判明した。影響点では負の影響、不満点では正の影響が確認された。よって仮説は影響点においては支持されたが、不満点に関しては支持されなかった。

以上の結果になった理由について検討する。まずワクチン接種者に対する評価が影響点、不満点に影響を及ぼされなかったのは、新型コロナウイルスワクチンの効果が人々に認知されていることが影響している可能性がある。政府が新型コロナウイルスワクチンに関して多くの効果を表しているのは問題において記載済みである。新型コロナウイルスワクチンの効果が広く知れ渡っているため、個人の影響や不満に影響がなかったのではないかと考えられる。

ワクチン非接種者に対する評価に影響点が負の影響があった理由として、新型コロナウイルスによる個人内の影響がかなり大きかったと考えられる。厚生労働省や首相官邸など政府、NHKが提示しているデータから社会的損失が多いことは既に述べている。その状況下における収入や環境下の変化が人々にとって大きなストレスとなっていた可能性は大きい。

また、新型コロナウイルスワクチン未接種者の評価に対してステレオタイプの認知が働いていた可能性もある。先行研究でも述べたが、新型コロナウイルス感染者に対して、社会性が低く、活動性が高いというステレオタイプの認知が確認されている(山本・岡, 2021)。新型コロナウイルス未接種者は、多くの人が打っているに関わらず新型コロナウイルスワクチンを接種していないので、社会性が低いと認知されている可能性がある。そのため、新型コロナウイルス感染者同様にステレオタイプの認知が備わっている可能性は大きい。しかし、本研究ではそれらを取り扱っていないため、今後の研究課題として捉える必要がある。

しかし不満点に関しては、仮説とは異なった結果となっている。回帰分析の結果において正の影響が見られている。また相関分析においては有意ではなかったものの、小さい正の影響が確認されている。仮説では、不満点においても影響点と同様に負の影響を予想していた。

このような結果になった原因として、新型コロナウイルスが不満だけではなく、利益ももたらし

ている可能性が示唆されていると考えられる。確かに新型コロナウイルスによって収入は減り、経済的に大きな影響を及ぼしていることは前述の通りである。しかし、今回影響点と組み合わせで分析することで、不満点の効果が有意となり正の影響が確認された。つまり、影響はあったが不満だった訳ではないということになる。考えられる理由としてオンデマンド授業、自宅勤務による自由時間の増幅が考えられるが、本研究ではこれらを検討していない。これも今後の研究課題として捉える必要がある。

しかし、本研究において多くの問題と課題点が存在する。まず、本研究の質問紙面の問題である。本研究の質問項目は「新型コロナウイルスワクチン接種者の評価」・「新型コロナウイルスワクチン非接種者の評価」・「影響点」・「不安点」から構成されている。しかし、それら質問項目が、本研究の調べたいものとは別の要因が評価、および点数に関わっている可能性がある。例えば、「新型コロナウイルスワクチン接種者の評価」・「新型コロナウイルスワクチン非接種者の評価」では集団を表す表現として「友人」を多く用いていた。しかし、「友人」と「他人」の評価は同じではないと考えられるため、「友人」が入った質問紙項目だけ、回答が歪められた可能性は否定できない。各質問紙によって別の要因が加わらないよう、刺激となる評価対象者を固定化する必要がある。

「影響点」・「不安点」においても問題がある。個人の影響や不安は人によって様々であり、一概に決めることが出来ない内容である。それらを測定するためには、人々がどのようなことに不安を抱くか、影響されているかを検討する必要がある。また、本調査項目では影響点は5項目、不満点は4項目しか用意していない。これだけ少ない調査項目から得られた影響点と不満点から新型コロナウイルスワクチンの有無によって評価が変わるかを調査するのは、質問項目数が不十分だと考えられる。本研究で提示した項目が新型コロナウイルスによって影響を受けた方に当てはめた質問項目を教示するため、事前に新型コロナウイルスの意識調査を分析し、質問紙項目を設定する必要がある。

2つ目として、質問紙研究における調査人数の不足である。本研究の調査回答者数は53人とま

## 新型コロナウイルスワクチンの接種情報が対人認知に及ぼす影響

だ調査に必要な人数が集まっている訳ではない。適正な人数で行う事で違った結果が見えてくる可能性はある。適正な人数、および調査日程の検討をするべきだと考えられる。

3つ目として、今回は新型コロナウイルスワクチンの有無による評価の要因を、影響点および不満点の2つの個人差要因のみで検討したが、その他の要因が起因している可能性について本研究では検討していない。新型コロナウイルスによって多くの影響があるため、これらの要因だけが新型コロナウイルスワクチンの接種の有無による評価に影響しているとは限らない。本研究で取り上げた個人差要因だけでなく、様々な分野から調査することが必要である。例えば個人の人格特性に関する検討や社会的立場による検討などがあげられる。

4つ目として、年齢層に関する問題である。本研究では20代を中心に調査を行っているため、年齢層に偏りがある。また全国の20代からランダムサンプリングしている訳ではないため、本研究結果が一般化されていると考えるのはまだ早いと考えられる。働いている世代である30代・40代であれば、より大きな新型コロナウイルスによる影響を受けている可能性もある。今後30代や40代といった年代別で調査することで、20代中心の本研究結果とは違った見解が得られると考えられる。

## 謝 辞

本研究にご協力いただいた参加者ならびに担当ゼミ教員である行廣教授、そして参加者を募ることに協力して頂いた友人に感謝を申し上げます。特に、行廣教授には多くの面でお世話になり、卒業論文をここまでの形に仕上げられたのは、ひとえに行廣教授のおかげである。改めて感謝申し上げます。

## 文 献

福井義一 (2022). わが国における新型コロナウイルス (COVID-19) 感染者への偏見や差別意識に寄与する要因 —大学生における探索的検討— 甲南大学紀要. 文学編, 172, 123-139.

法務省 (2022). 新型コロナウイルス感染症に関連して —差別や偏見をなくしましょう— [https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02\\_00022.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken02_00022.html) (アクセス日: 2022年12月13日)

岸川洋紀 (2022). 新型コロナワクチン接種行動および忌避行動の多様性—大学生を対象とした質問紙調査—リスク学研究, advpub, SRA-0409. <https://doi.org/10.11447/jra.SRA-0409>

厚生労働省 (2022). 新型コロナワクチン Q & A. オミクロン株対応ワクチン <https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/bivalent/> (アクセス日: 2022年12月28日)

厚生労働省 (2022). 新型コロナワクチン Q & A. 今回のワクチン接種の「努力義務」とは何ですか。 <https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0067.html> (アクセス日: 2022年12月13日)

厚生労働省 新型コロナワクチン Q & A. ワクチンの効果 <https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/effect/> (アクセス日: 2022年12月13日)

厚生労働省 (2023). データからわかる—新型コロナウイルス感染症情報— <https://covid19.mhlw.go.jp/> (アクセス日: 2023年1月9日)

厚生労働省 (2022). マスク着用に関して [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku_00001.html) (アクセス日: 2022年12月23日)

李光鎬 (2021). メディアシニジズムと新型コロナウイルス感染症に対するリスク認知および市民的価値観の関連 (1) 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要: 社会学心理学教育学: 人間と社会の探究, 91, 59-66.

元吉忠寛 (2021). 新型コロナウイルス感染症による人々への心理的影響 社会安全学研究, 11, 97-108.

内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室 (2022). 基本的対処方針に基づく対応 <https://corona.go.jp/emergency/> (アクセス日: 2022年12月25日)

NHK. データで見る 新型コロナ 中小企業への影響. <https://www3.nhk.or.jp/news/special/>



coronavirus/economic-indicators/detail/detail\_14.html (アクセス日: 2022年12月28日)

Schaller, M., & Duncan, L. A. (2007). The behavioral immune system: Its evolution and social psychological implications. In J. P. Forgas, M. G. Haselton, & W. von Hippel (Eds.) *Sydney symposium of social psychology. Evolution and the social mind: Evolutionary psychology and social cognition* (pp. 293–307). Routledge/Taylor & Francis

Group.

首相官邸 (2022). 新型コロナワクチンについて <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansho/vaccine.html> (アクセス日: 2022年12月28日)

山本愛菜・岡隆 (2021). 新型コロナウイルス感染者に対するステレオタイプと行動免疫システム活性化の個人差との関連. *心理学研究*, *92*, 360–366. <https://doi.org/10.4992/jjpsy.92.20334>